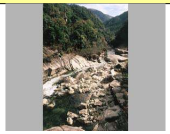
国／県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
県	名勝	弥栄峡	やさかきょう		大竹市栗谷町大栗林, 大竹市小方町小方	昭24.8.12			安芸国と周防国の国境を流れる小瀬川(おぜがわ)の中流，魚切(うおきり)から南約3kmの峡谷。この地一帯は花こう岩からなり，特に粗大な方状節理，板状節理が発達し，渓流の浸食により両岸はそばだって，屏風岩(びょうぶいわ)・重ね岩などの奇勝を生んでいる。峡谷の様相はアカマツ・カシなどの常緑広葉樹も入り交じり，秋の紅葉も美しい。鳥越の岩壁の下流と発電所の上流約1kmの川底には甌穴群がみられる。		
県	天然記念物	栗谷の蛇喰磐	くりたにのじゃくいいわ		大竹市栗谷町栗谷	昭23.9.17			小瀬(おぜ)川の支流玖島(くじま)川と本流との合流点は，本支流の河床の高さが異なるため早瀬をなし，渦流(かりゅう)が河床の花こう岩を浸食して大小多数の甌穴（おうけつ）を生じている。甌穴は河床でそれぞれ孤立し，あるいは連鎖状をなし，さらに浸食が進んで深い溝状になったものなど多種多様で，甌穴の成因と成長発達の過程を示す貴重な資料である。地元ではこの一帯を蛇喰磐と称し，甌穴には水神のもちつき釜，雨の釜，風の釜などの名がつけられている。		
国	登録有形文化財（建造物）	阿多田島灯台資料館 （旧安芸白石挂燈立標施設）吏員退息所	あたたじまとうだいしりょうかん（きゅうあきしらいしけいとうりつぴょうしせつ）りいんたいそくしょ	1棟	大竹市阿多田島田ノ浦	平8.12.20	煉瓦造，平屋建，洋瓦葺，寄棟造，明治36年（1903）建設	建築面積91㎡	煉瓦造で外壁にモルタルを塗った航路標識施設の附属屋で，アーチ形の入口や窓の鎧戸等に洋風の意匠を取り入れている。わが国の近代の海上交通の発展に貢献した阿多田島の役割を理解する上で欠くことのできない施設である。		
国	登録有形文化財（建造物）	阿多田島灯台資料館 （旧安芸白石挂燈立標施設）物置	あたたじまとうだいしりょうかん（きゅうあきしらいしけいとうりつぴょうしせつ）ものおき	1棟	大竹市阿多田島田ノ浦	平8.12.20	煉瓦造，平屋建，洋瓦葺，寄棟造，明治36年（1903）建設	建築面積42㎡	煉瓦造で外壁にモルタルを塗った航路標識施設の附属屋で，物置や浴室として使用された。隣接する旧吏員退息所とともにわが国の近代の海上交通の発展に貢献した阿多田島の役割を理解する上で欠くことのできない施設である。		
国	登録有形文化財（建造物）	阿多田島灯台資料館 （旧安芸白石挂燈立標施設）油庫	あたたじまとうだいしりょうかん（きゅうあきしらいしけいとうりつぴょうしせつ）ゆこ	1棟	大竹市阿多田島田ノ浦	平8.12.20	煉瓦造，平屋建，洋瓦葺，寄棟造，明治36年（1903）建設	建築面積12㎡	洋風の意匠をもつ煉瓦造の倉庫で，燈火用の油庫として使用された。島では数少ない煉瓦を外観に現した建物であり，わが国の航路標識施設の整備が大きく進展した時代に建設された煉瓦造の附属施設の様子を知ることができる好例である。		